

日医工医療行政情報

<https://stu-ge.nichiiko.co.jp/>

2021年12月22日 中医協総会(調剤) 「個別事項 (その11)」 ～電子版お薬手帳～

作成：日医工株式会社（公社）日本医業経営コンサルタント協会認定 登録番号第4828号 長岡俊広
日医工株式会社（公社）日本医業経営コンサルタント協会認定 登録番号第6345号 寺坂裕美

参考資料：2021年12月1日 診療報酬改定結果検証部会資料「令和2年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和3年度調査）の報告書案について_かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査」
2021年12月22日 中医協総会資料「個別事項（その11）」
2021年12月24日 厚生労働省「令和4年度厚生労働省予算案の主要事項」

- ・次期診療報酬改定に向けて、中医協総会においてテーマごとに議論され、論点整理が進んでいます。10月より個別・具体的な検討・議論（いわゆる第2ラウンド）が開始され、例年、年明け1月に諮問、2月に答申、3月初旬に告示が行われます。

資料No.20220107-1175(2)

本資料は、2021年12月24日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます

- ・12月22日は、厚生労働省側より「個別事項（その11）」について課題が示されました。
- ・こちらの資料では「電子版お薬手帳」に関わる内容をピックアップしました
- ・今後の議論のポイントとなりそうな課題を抜粋し、総会で **支払側（1号）** **診療側（2号）** の各委員から述べられた意見を要約しています。

○電子版お薬手帳をどの薬局でも利用できるよう、以下のような取組が実施されている。

①標準データフォーマットを作成 ⇒ どの薬局の情報も「記録」できる

②運営事業者が異なっても閲覧できるシステム(e薬Link)を提供 ⇒ どのお薬手帳を利用しても情報を「閲覧」できる

※薬剤服用歴管理指導料では、上記に該当する電子版お薬手帳は紙のお薬手帳と同様に評価。

電子版お薬手帳について

【お薬手帳とは】

- 患者の服用歴を記載し、経時的に管理するもの。
- 患者自らの健康管理に役立つほか、医師・薬剤師が確認することで、相互作用防止や副作用回避に資する。

【法令上の定義】

当該薬剤を使用しようとする者が患者の薬剤服用歴その他の情報を一元的かつ経時的に管理できる手帳（薬機法施行規則第十五条の十三第一項第三号）

【電子版お薬手帳のメリット】

- ① 携帯電話やスマートフォンを活用するため、携帯性が高く、受診時や来局時にも忘れにくい。
- ② データの保存容量が大きいので、長期にわたる服用歴の管理が可能。
- ③ アプリケーション独自に運動の記録や健診履歴等健康に関する情報を管理する追加機能を備えているものもある。

電子版お薬手帳の機能

- ① 薬剤情報等の記録
→ QRコード等で薬剤情報の取り込み又は患者が手入力で記録
- ② 医療関係者への提示



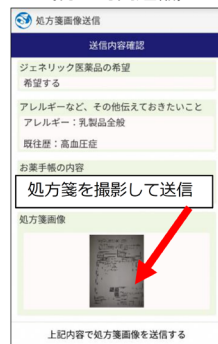
画像：健康のくらより

①スケジュール管理 (服用アラーム)

開始日	2017/03/21
終了日	2017/03/24
朝	8:00
昼	12:00
夜	19:00



②薬局へ処方箋画像送信 (待ち時間短縮)



③健康管理機能 (歩数、血圧など)



画像：
①②日本薬剤師会 eお薬手帳より
③PHC株式会社 ヘルスクア手帳より

※令和3年度予算事業において、電子版お薬手帳の現状等に関する調査・分析・課題の整理を踏まえ、お薬手帳サービスのより一層適切な推進に向け、今後の方向性について検討を行っている。また、令和4年度予算において、電子版お薬手帳について、有効で安全な薬物療法及びセルフメディケーションを推進するため、マイナポータルや電子処方箋、PHRの推進等のデータヘルス改革の動きを踏まえつつ、一般用医薬品等の情報の効率的な把握・管理の方策、今後活用が期待される機能についての調査、薬局・店舗販売業等における効果的な活用方法を検討する事業について要求しているところ。

【令和4年度予算案】 医療等分野におけるデータ利活用の推進等

(1)医療等分野におけるICTの利活用の促進等
748億円

うち、

- ・保健医療情報を医療機関等で確認できる仕組みの推進 5.9億円
- ・医療情報化支援基金による支援【新規】 735億円

診療側意見【薬剤師委員】

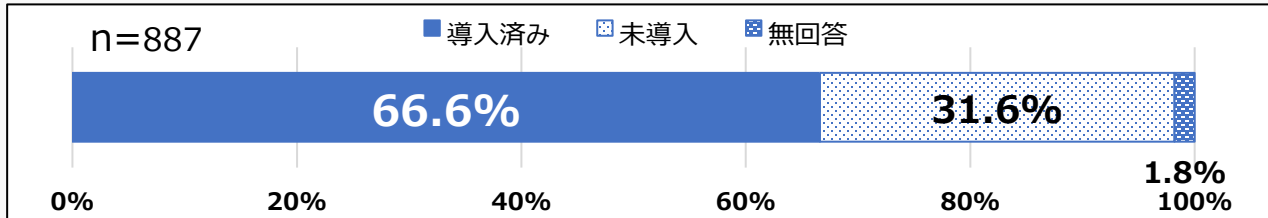
・オンライン資格確認のデータとお薬手帳を活用することで、より効果的な服薬指導等を実施していく

支払側意見

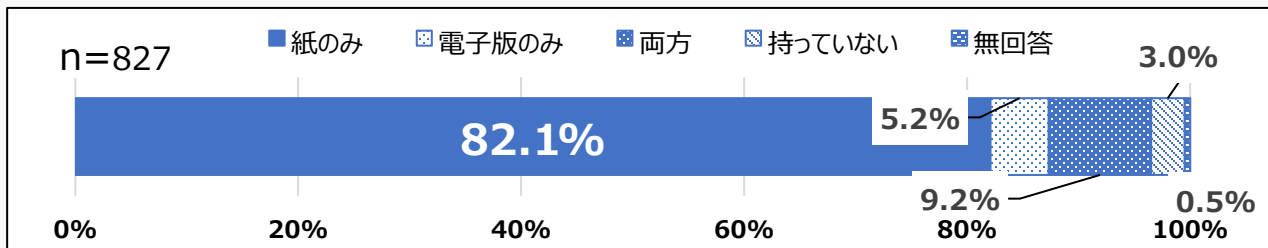
・一部はオンライン資格確認システムを基盤として、仕組みの中で機能が代替されていくと思うが、電子版お薬手帳も活用しながら、**付加価値の高い薬歴管理指導を実施していただきたい**

課題：電子版お薬手帳の導入済の薬局が約66.6%であった。また、電子版お薬手帳について、「既に利用している」、「利用したい」と回答した患者は増加しており、令和3年度において、それぞれ13.2%、10.3%であった。

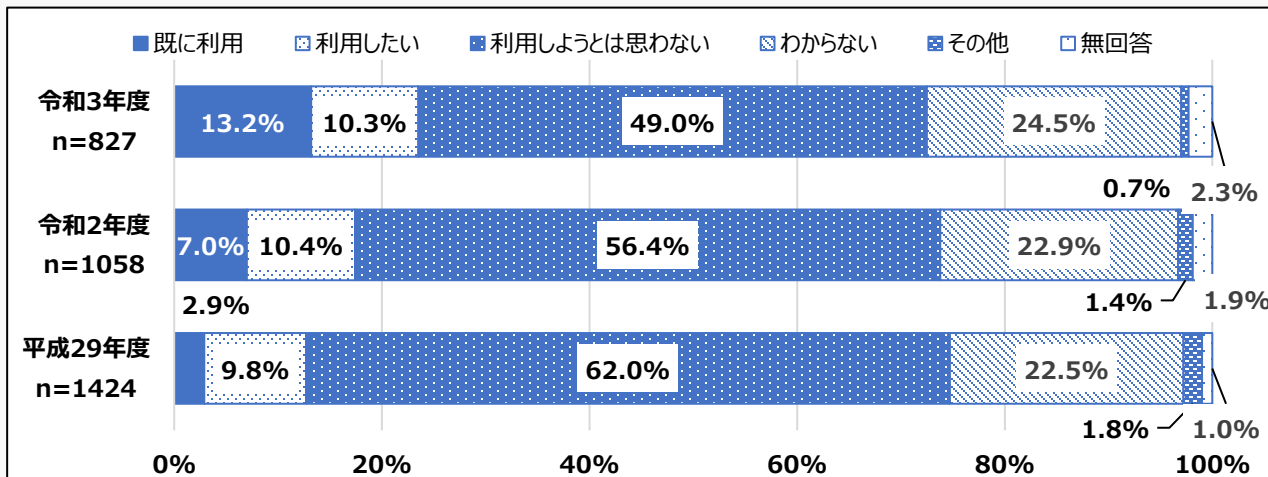
○電子版お薬手帳の導入有無（薬局） 令和3年7月1日現在



○お薬手帳の保有状況（患者） 令和3年度調査



○電子版お薬手帳の利用意向（患者） 令和3年度調査



診療側意見【薬剤師委員】

- ・利用したい方が利用できる環境整備が重要で、薬局での導入は引き続き進めていきたい
- ・紙のお薬手帳の方が利便性が高い場合もあり、諸問題については引き続き検討が必要

支払側意見

- ・スマートフォン等の機種変更時にデータの引き継ぎが必要だが、利用者としても利便性を感じており、さらに普及することで、電子処方箋の活用など用途の広がりが期待できる

MPSコメント

- ・オンライン資格システムを活用した薬剤情報の閲覧や電子処方箋が本格的に導入された際には、電子版お薬手帳と連動することでより効果的な服薬指導に繋がることが期待されます
- ・今後、患者が薬局を選択するにあたり、電子版お薬手帳の導入有無も重要な要素となることが予想されます

【令和3年12月1日診療報酬改定結果検証部会資料を元に日医工（株）が作成】

本資料は、2021年12月24日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。



日医工がお届けする **Stu-GE** は、

医療従事者の方のための医療行政情報サイトです。

ご覧頂ける
テーマ別
情報一覧

- 診療報酬改定関連の速報情報
- 診療報酬点数の施設基準や算定要件の情報
- 調剤報酬全点数情報
- 地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の施設基準
- DPC/PDPS関連 新規薬価収載に係る包括評価対象外薬剤一覧
DPC公開データを用いた各種医療圏分析
- その他医療制度に関する情報

会員登録は、**無料**

いますぐ、会員登録サイトで登録を!!

会員特典1 → メールマガジンの受信

会員特典2 → 会員限定コンテンツの閲覧

スマートフォンで簡単登録

パソコン画面で入力



<https://stu-ge.nichiiko.co.jp/registrations/index>